

授業改善推進プラン【理科】

谷戸第二小学校

1 調査結果の分析

<関心・意欲・態度>

理科の学習に対する関心・意欲は高く、理科の学習を楽しんでいる児童が多い。

<科学的な思考・表現>

児童の多くは実験や観察そのものを楽しむことはできるが、深く考えたり、見通しをもったりしながら学習を進めていくことを難しいと感じている児童が多い。

<技能>

複数の資料を比較して共通点や相違点を見出すことが苦手である。

<知識・理解>

児童の多くは、既習事項を十分に定着させている。ただし、物の性質について理解があいまいな児童は、学習全体の理解にも乏しい結果となった。



2 授業改善の方策

- 指導計画の作成の際に、観察・実験や自然体験などを取り入れた体験的な活動の充実を図り、実感を伴いながら自然の事物・現象を理解できるようにする。
児童一人一人が十分に組み込むことができるように時間設定を工夫したり、教材・教具の数を充実したりする。また、児童が感覚的にとらえ、理解しやすいような教材・教具の工夫を図るようにする。単に言葉等を覚えるだけでなく、学習したことを実際の生活場面に適用して考えることができるようにしていく。
- 「見通す力」を育成するための学習の改善・充実を図る。
「見通す力」を育成するには、**既習事項を生かし**、結果を予想する習慣を身に付けさせることが大切であり、実験前の予想だけでなく、観察を行う前にも結果を予想させる。すると、児童自身がよく分かっていないことに気づき、その後の観察視点が明確になり、観察への意欲が高まっていく。こうした活動を継続していくことによって、結果を予想する習慣が児童に身に付いていく。
また、予想したことについて、言語によって情報交換する場を設定すると、自分の予想の立て方や、その妥当性について振り返ることが出来ると共に、友達の根拠のある予想などの良いところを学ぶこともできる。これらの経験を積み重ねることにより、「見通す力」を身に付けることが出来る。
- 複数の情報を比較しながら読み取る活動や、その中から必要な情報を取捨選択して活用する指導の充実を図る。**
例えば、第3学年「昆虫の体のつくり」の学習において、児童が採取した昆虫だけでなく、**昆虫の載っている図鑑の活用や**、教師がその他の昆虫や昆虫以外の生き物の実物や写真等を掲示して、児童がたくさんの昆虫や生き物を比較しながら共通点を見い出せるような活動を取り入れる。
また、第5学年「天気の変化」の学習では、観察記録や天気図、降水量のデータ、テレビの映像といった様々な情報を教師と児童が協力して収集し、問題に応じて必要な情報を取捨選択して活用し、問題を解決していく活動を設定する。複数の資料から必要な情報を読み取る力を育て、意思決定を行えるようにしていく。



3 補充的・発展的な学習指導

- 補充的な学習指導としては、いずれの単元でも、スモールステップの指導計画を立て、できる限り再実験や確かめるための観察ができる場を作る。単元の学習終了後に、児童が日常生活の中から学習内容と関連のある科学的現象を想起したり、教師が日常生活で見られる現象を児童に示したりして、学習した内容と日常生活とのつながりを考える場面を意図的・計画的に設定し、既習事項を印象付けて、知識の定着を図る。
理解をより深めるために、単元の系統性を意識した学習計画を考える。